

No	ビジョン懇談会委員等からの意見 (拡充…拡充に向けての意見、自由…自由意見)	連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し
1	(拡充) 観光関連の事業と地域産品に関連した事業をコラボさせたような企画の開発への支援を検討して欲しい。(土産ものつきのオンラインツアーの開発支援など)	<p>史跡高松城跡玉藻公園披雲閣を舞台にした、「讃岐の伝統工芸士と世界的に活躍するアーティストとが Matching (交流) し、オンラインで随時配信しながら Create (製作) し、創作された工芸品を Exhibition (展示・体験) する事業」が文化庁の「ウイズコロナに対応した文化資源の高付加価値促進事業」(実証事業)として採択され、現在、旅行者と連携し、準備を進めているところです。</p> <p>今後も民間の事業者と連携しながら、国の同様の事業への応募など、圏域全体に効果を波及させる方法を調査研究してまいりたいと存じます。</p>
2	(自由) オンラインを活用し、市民の意見を事業の拡充や新規提案に反映させていけば良いのではないかと思います。(「たかまつアイデアFACTORY」の圏域版などの形(想定通りの成果があったかの検証は必要ですが))。	<p>本市では、「スーパーシティ構想」の区域指定を目指し、提案をまとめるにあたり、市民の皆様からのアイデアや御意見を伺う手段の一つとして、国の「デジタル改革アイデアボックス」の事例を参考に、市民参加型アイデア募集プラットフォームを導入(「たかまつアイデアFACTORY」と命名)しました。</p> <p>「たかまつアイデアFACTORY」は、自身が投稿したアイデアや意見が公開され、それについて市民同士で対話ができる仕組みとなっており、また、どのような御意見が市民の皆様からより多くの共感を得ているかなど、分析機能も備わっており、意見収集に有効な仕組みだと考えています。</p> <p>約2か月間で計190件のアイデアや御意見等が寄せられるなど一定の効果があったため、今回活用した仕組みも含め、ICTを活用した様々な意見集約の方法を調査研究してまいりたいと存じます。</p>
3	(拡充)【移動図書館巡回事業】【読書推進ボランティア養成事業】 それぞれの取組は充実してきていると思うが、各事業間で連携した取組があると、より多くの方が関心を持ち、活用してくれるのではないかなと思う。その他の産業や観光の分野も勿論だが、文化の街、圏域としての取組の拡充があれば良いと思う。	<p>本市では、たかまつミライエにおいてこども未来館学習を実施しており、こども未来館でのプラネタリウムや科学の学習に加え、夢みらい図書館において図書の学習を実施しており、圏域からも参加校を受入れているところでございます。</p> <p>また、圏域での連携はできてはおりませんが、中央図書館が所在するサンクリスタル高松では菊池寛記念館、歴史資料館を含めた3館連携でサンクリスタル学習を実施するほか、そのオプションとして、美術館や史跡天然記念物屋島を学習するコースを提供しているところでございます。このほか、菊池寛記念館・歴史資料館の学芸員が推薦する図書を紹介する展示なども行うなど、文学、文化財、美術といった分野との事業間で連携した取組を行ってきたところでございます。今後、これらの取組を圏域に広げていくことを検討してまいりたいと存じます。</p>
4	(拡充)【史跡・遺跡の調査研究及び発信】 SNSなどを活用し、幅広い世代に発信していくことで、郷土について興味・関心・愛着をもつ人が増えると思う。	<p>これまでも高松市の広報紙、チラシ、高松市のSNS (facebook、instagram) 等で情報発信を行ってまいりましたが、今後は、より幅広い世代に関心を持っていただけるような見出しにするなど、SNSの発信方法を検討し、改善してまいりたいと存じます。</p>
5	(拡充)【中学校総合体育大会等の連携】【高松市屋島競技場の活用】【地域密着型トップスポーツチームの試合観戦機会等の提供】 体力、技術の向上には健康な身体づくりが必須なので、農産物などの事業と連携し、「食」についての企画があってもよいと思う。地産地消で健康な身体づくりをすることで、健康スポーツ分野での活性化、地域密着型のトップアスリートの育成にもつながると思う。	<p>昨年度、香川ファイブアローズの選手が、J A 香川県と連携し「スポーツで香川を元気にし隊」事業の一環として、高松産の農産物をPRしたところですが、今後、取組状況を踏まえ、食の企画についても、検討してまいりたいと存じます。</p>
6	(自由) 先日のニュースで、「住み続けたい街、都道府県ランキング」で香川県が1位になったのを見た。自然災害も少なく温暖な気候であること、面積が小さくコンパクトで病院やショッピングモールなどが程よく点在している為、どの地域に居住していても「田舎暮らし」と「都会暮らし」が味わえるということらしい。しかし、残念ながら経済や生活関連機能についての評価は特段ないようで、様々な分野で更なる連携拡充を図り魅力ある圏域になることを期待したい。With コロナでリモートやSNSの環境も幅広く普及していることから、特に、これからの時代を担う世代への発信や事業拡充が必要と思う。	<p>近年、本格的な人口減少社会を迎える中、市民の皆様が、暮らすことに誇りが持てるまちづくりを進めていくため、第6次総合計画の目指すべき都市像をいたしまして、「活力にあふれ 創造性豊かな瀬戸の都・高松」を掲げ、各種施策に取り組んでおり、「住み続けたい街、都道府県ランキング」で香川県が1位になったことは大変、嬉しく感じております。</p> <p>今後は、「本市の行政課題に迅速かつ的確に対応するため、様々な分野での大学等や企業との連携事業の実施の更なる推進」や「8月以降の瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン取組事業の新規・拡充の調査の実施」及び、「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ポータルサイトやフェイスブックを利用し若者も含めた幅広い世代に対し圏域の観光やイベント等の情報発信」等に取り組む、魅力ある圏域づくりに努めてまいりたいと存じます。</p>

No	ビジョン懇談会委員等からの意見 (拡充…拡充に向けての意見、自由…自由意見)	連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し
7	(拡充) 生涯を元気で過ごせる地域になる為に、職場を退職されても今までの経験を生かし圏域全体で働ける間は職に就ける制度を検討して欲しい。	経験や技術を生かして、生きがいづくりや社会参加、社会貢献の機会を求めている高齢者の就労の機会を拡大するため、高齢者に臨時・短期的な就業の場を提供しているシルバー人材センターの運営を支援しています。 今後もシルバー人材センターの就業メニューを充実させる支援を行うとともに、高齢者雇用についての企業への啓発等、事業主体の運営の活発化を引き続き支援してまいりたいと存じます。
8	(拡充) 日頃色々な場面で障がい者に対する思いやりのなさを感じています。障がい者に対する意識改革は、幼い頃から教育する大切さとコミュニティでの人材育成で生涯通じての教育が必要と思われるます。	本市では、「高松市手話言語及び障害のある人のコミュニケーション手段に関する条例」に基づき、言語としての手話についての理解の増進や、障がいの特性に応じた多様なコミュニケーション手段の普及、利用の促進のため、小学校での手話学習事業や手話通訳者の育成研修を実施しております。 また、ヘルプマーク・ヘルプカードの配布や、市内の高校の生徒や地元のシンガーソングライターとのコラボによる手話動画の制作・配信、中央商店街や市内の大学と連携したコミュニケーション支援ボードの作成などのほか、障がい者への合理的配慮を促すための助成や広報活動にも取り組んでいるところでございます。 今後とも、様々な角度から、障がい者への理解を促すための活動に取り組んでまいりたいと存じます。
9	(拡充) 日本の人口が減少している中、圏域内を活性化させるためには、交流人口の拡大が必要不可欠であると思う。 観光については、周辺市町又は他県とこれまでも連携して取り組んできたが、Withコロナ・Afterコロナ時代においては、より一体的な取り組みが必要であると思う。具体的には、圏域をカバーするポータルサイトを設置し、各市町の観光関連ホームページにリンクする。ただし、観光情報や新着情報まで網羅したものとすると、更新にマンパワーが必要になり更新されないWebページとなってしまうがちであるため、各市町の観光情報へのリンクが望ましい。	本市では、「たかまつ人口ビジョン」を改訂し、令和4年(2060年)に38万人程度の目標人口を掲げるとともに、その達成に向けて、これまで以上に危機感をもって、人口減少の抑制に取り組み、人口減少に対応できる社会を構築するため、「第2期たかまつ総合戦略」を令和2年3月に策定し事業を推進しております。 また、平成22年度から瀬戸・高松広域定住自立圏を形成していましたが、これまでの定住自立圏における生活関連機能サービスの向上に資する取組に、新たに経済成長のけん引や、高次都市機能の集積・強化の取組を加え、3市5町で形成する「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏」として発展移行しています。 その取組の一環で「瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ポータルサイト」を開設し、圏域内の瀬戸・高松広域圏のイベント情報や観光情報及び連携市町の観光関連ホームページへリンクさせるほか、移住情報等も掲載し、圏域外の方へもPRを実施しているところです。
10	(拡充) 戦略的な観光施策の展開について、宿泊税など目的を絞った収入を確保することで、より専門性の高い人材の確保や長期的な事業計画の策定に繋げる。	本市では、自主財源の充実強化を幅広く検討するため、高松市自主財源検討委員会において、新たな財源確保策として宿泊税についても検討を重ねてまいりました。しかしながら、宿泊税の導入のみで財源不足を補うことはできないことや、本市の観光施策に影響を与える可能性があるほか、宿泊施設に特別徴収の事務負担が発生するなどの課題が多く存在するとの指摘を受けたところでございます。 今後におきましても、高松市の観光客数や他都市の状況等を勘案し、適切な時期に宿泊税などの収入について、再度検討してまいりたいと存じます。
11	(自由) 域内の多くの市町が関連するものとして、瀬戸内海がある。離島も含め、観光客が、気軽に港に停泊させる仕組み作りが必要であると思う。	観光客が気軽に港を利用又は船舶の停泊する施設である、ビジターバース(一時係留施設)は、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏において、高松市ほか土庄町、小豆島町、直島町で供用しているところでございます。 また、これらの情報につきましては、瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会や港湾管理者のHPで、紹介しており、今後におきましても、圏内外を問わず情報発信に努めてまいりたいと存じます。
12	(拡充) 圏域内の自治会体制を充実し、コミュニティ意識を高め、活性化を図り、人材養成につなげる。	地域の連帯感を取り戻し、地域自らのまちづくりを推進するため、「自治会の在り方等検討プロジェクトチーム」で検討された自治会支援策を踏まえて、地域と行政とで共に自治会再生に向けた新たな取組を実施するなど、地域コミュニティの中心的役割を担う自治会の活動を支援してまいります。 その支援策の1つである、魅力ある自治会の姿を啓発するための自治会ハンドブックにつきましては、ハンドブックを活用した研修等を行い、自治会の活動や運営を見直すきっかけや事務的な改善につなげるなど、自治会運営のスキルアップとともに自治会の信頼性を高めてまいりたいと存じます。
13	(自由) 圏域市町とアクセスするバス路線は必要で、地域内のコミュニティバス等通行している圏域内の連携を今後検討してはどうか。	令和元年度、高松市総合都市計画推進協議会において瀬戸・高松連携中枢都市圏内の行政区域にまたがる広域的な公共交通ネットワークの形成について検討を行い、需要に応じたサービスを見据えた引田線再編の可能性や、MaaSを見据えたICカード戦略、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏で連携した公共交通空白地域対策等、広域連携の可能性(課題)をまとめました。 今後は、需要予測の結果等を踏まえながら、関係市町における交通計画の策定状況や当該計画内における広域的なバス路線の位置付けを把握するとともに、広域的なバス路線の可能性に向けた相互連携、本市が実施しているIruCaを活用した公共交通の利用促進事業について、関係市町に対し制度導入に向けたノウハウなどの情報提供、本市が行うタクシーを活用した新たな交通モード創出に向けた実証事業の情報提供などを行うことにより、圏域における連携可能な領域分野を、相互理解の基に検討を進めてまいりたいと存じます。

No	ビジョン懇談会委員等からの意見 (拡充…拡充に向けての意見、自由…自由意見)	連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し
14	(拡充) 全国有数の美観都市という高松市の自然とまちのたたずまいを利用したウエルネス産業を産学官で充実させていただきたいと思いをもちます。	本市では、10年後の将来を見据え、「全ての市民が共に支え合い、健やかで心豊かに生活できる活力ある社会の実現」を目指し、2014年3月に「高松市健康都市推進ビジョン」を策定しました。 また、計画策定から5年が経過した2019年3月には今後の健康づくり対策の充実とより効果的な推進を図るため、中間見直しを行い、家庭や地域、学校、企業及び関係機関と連携の下、市民の健康づくりを推進しておりますが、今後、更なる連携を図りながら、御提言のウエルネス産業の充実につきましても、調査・研究してまいりたいと存じます。
15	(拡充) 熊本地震や西日本豪雨等の災害を受けて、災害時における地域の高齢者や乳幼児等の生活弱者を救助・救援する制度を作るのはどうか。そのためにはプライバシーの侵害を超えた地域(行政・消防署・消防団・青年団等)の連携が不可欠である。独居老人の所在地や薬の管理等が一括できていれば救助等が少しでも容易になる。また乳幼児の数に応じた粉ミルクやオムツ等の確保を目指しての備蓄を検討する。	令和2年7月の豪雨災害時の犠牲者のうち、65歳以上の高齢者が占める割合は、約8割であったことから「災害弱者」と呼ばれる人たちの支援制度は急務となっている。 令和3年5月10日付公布の災害対策基本法の一部改正において、個別避難計画の作成が市町村の努力義務となり、避難行動要支援者名簿と併せて、この個別避難計画作成を、各地域コミュニティを始め、地域支援組織と連携して進めているところである。 粉ミルクについては、香川県が作成した南海トラフ地震被害想定のうち備蓄対象避難者数及び0歳児の割合、1人1日当たりの必要量を基に備蓄数量を定め、備蓄するとともに、アレルギー対応の粉ミルクも同じように備蓄しております。 紙おむつについては、香川県が作成した南海トラフ地震被害想定のうち避難所避難者数及び0歳から2歳の乳幼児の割合、1人1日当たりの使用枚数に基づき備蓄数量を定め、備蓄し災害に備えております。
16	(自由) 災害対応については現在県をあげてのマニュアル等の作成に励んでいると存じますが、更に地域ごとの特有の情報や状況が反映される必要があるかと思います。	県・市ともに防災計画を作成し災害に備えているとともに、地域コミュニティ協議会ごとに「共助」を活かし、発災直後からスムーズに応急対策を開始することを目的に地域コミュニティ継続計画の策定に取り組んでおります。
17	(拡充)【中小企業経営力強化事業】 コロナ後における業界を超えた具体的な連携を促す検討会の実施など、経営者として過去の時代の栄光を語るのではなく、持続可能な会社経営について検討できる知識の習得や若い世代への交代を促す等、経営者の意識改革につなげる。	経営講習会では働き方改革や経営分析に関するセミナーなど、中小企業者の経営に資すると考えられる内容のセミナーをこれまで実施してまいりました。 御提言の持続可能な会社経営や事業承継につきましては、近年、特にその重要性が高まっているものと存じており、今後の社会経済情勢等も踏まえ、事業者の経営意識改革につながるような講習会の内容を検討してまいりたいと存じます。
18	(拡充)【地域コミュニティ人材養成事業】 地域コミュニティ協議会だけでなく、地域の若者や働く世代で活躍している、核となる人材を巻き込んだ育成機会の検討が必要だと考える。 また、地域課題を自分ごとととらえる人がどのように解決しているのかを共有できる機会をつくる等、官民一体のネットワークづくりを検討してはどうか。	「市民主体のまちづくり」の実現に向けて、地域コミュニティ活動に関わる方々の意識を高め、活動等の活性化を図ることを目的に、地域自治組織関係者、地域活動団体関係者及び圏域7市町含む行政職員等を対象に、外部講師による講演会等や地域の活動発表の場を設けております。 令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大の影響で十分な研修が実施できておりませんが、Web会議システムの活用を検討するなど、今後も継続していくこととしております。 今後、地域コミュニティ人材を育成するためには、コミュニティ協議会職員以外の方も参加できる機会を増やしていくことが重要であるため、一般社団法人高松市コミュニティ連合会とも連携し、幅広い人材を巻き込むことのできる研修体制の構築に努めてまいりたいと存じます。 また、地域課題の解決に取り組む方たちと活動を行っているNPO法人等と連携して、地域課題解決に向けて取り組む先進的事例を共有できる機会が作れるよう検討してまいりたいと存じます。
19	(拡充)【データ活用型スマートシティ推進事業】 地域課題の解決のために異業種間のデータ共有や観光振興に活かせることを市町村議会の議員等に必要性や理解が進むよう具体的な説明機会をつくるなど、知識や認識強化につなげる。	本市では、ICT・データの活用と多様な主体との連携により、様々な地域課題を解決し、持続的に成長し続ける「スマートシティたかまつ」の実現を目指す中で、データを一括管理し、活用を推進するためのIoT共通プラットフォームを構築・運用しております。 令和2年3月には、防災分野を皮切りに、地域課題の解決に必要な情報を広域で共有し、安全・安心なまちづくりを推進するため、プラットフォームの共同利用について、綾川町と協定を締結し、4月から共同利用を進めています(他に圏域以外で観音寺市)。 本市のスマートシティ推進事業については、連携市町の担当課に対して、直接訪問するなどしながら、説明をするほか、各種イベント等の案内をしてきており、各市町とも協議する中で、議員への説明の要望があれば、対応してまいりたいと存じます。
20	(自由) 高松発着の航路便数について令和5年度の目標値では維持が掲げられているが、小豆島の観光やまちの持続可能性を考えると航路集約(草壁～高松間航路休止)について高松市としてどのような認識があるのか。また、航路復活にむけた支援策等、県内の観光振興の面からも高松市としてどのように取り組んでいけばよいかと考えているか。	本市では、持続可能な公共交通ネットワークを形成していくため、需要に応じた供給の最適化に取り組んでおります。 また、今後は、アフターコロナによる新しい生活様式のもと、人の行動変容による公共交通の維持に向けた取組は必要であると考えており、今後、調査・研究してまいりたいと存じます。

No	ビジョン懇談会委員等からの意見 (拡充…拡充に向けての意見、自由…自由意見)	連携中枢都市の現状と、今後の連携の見通し
21	<p>(自由) 圏域全体での若者世代の人口減について、地域の実情や過去の町の変遷等を踏まえてUターン者の促進が最重要課題と考えるが、移住だけに限らない、若者が帰ってきたい挑戦できる地域を形成するために、都会で学んだことが活かせる仕事を地域に創り、挑戦できる地域の形成が必要と考えるが、圏域ではどのような取組があるのか。</p>	<p>県内からの転出者が多い東京圏から、瀬戸・高松広域連携中枢都市圏内へのUターン移住を促進するため、東京都渋谷区に、「瀬戸・たかまつ移住&キャリアサポートセンター」を開設し、大学生などの若い世代に対して、市内企業の求人情報の提供やセミナーの開催など、きめ細やかな就職支援に取り組んでおります。</p> <p>今年度は、転出者が東京圏に次いで多い関西圏からのUターン移住を促進するため、大阪市内にサポートセンターの大阪サテライトを開設したところでございます。</p> <p>また、本市内に、若い世代が魅力を感じる働く場を創出するため、昨年度、企業誘致助成金の対象としている情報処理関連施設に、事務処理センターを加えるとともに、設備投資に対する助成率の引き上げや、雇用要件の緩和(高松市民から瀬戸・高松広域連携中枢都市圏住民へ拡充)、事務所賃借料の補助の創設など、企業誘致助成制度を大幅に拡充し、首都圏を中心とした情報通信関連企業等の積極的な誘致に取り組んでいるところでございます。</p> <p>今後も、若者に選ばれる魅力ある圏域づくりのため、様々な取組を検討してまいります。</p>
22	<p>(自由) 各種講座や講演会など、コロナ禍で行ってきたオンライン化を持続・拡充させ、離島からも高松市や各大学で行われているものに参加できる環境の整備をお願いしたい。社会人の終業後の時間帯や高齢者・学生でも気軽に参加して、勉強したいひとはたくさんいるものとする。</p>	<p>本市では、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、本市の主催する各種講座や講演会などについて、Web会議での受講を推進しているところでございます。(瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン事務局会や令和3年度第1回瀬戸・高松広域連携中枢都市圏ビジョン懇談会もweb会議で実施)</p> <p>御提言いただいた、離島のオンライン化の環境整備につきましては、女木島、男木島において、Wi-Fiスポットを整備し、地域住民の情報化を推進するとともに、情報格差解消を図るため、国の補助事業等を活用し、光ファイバー網整備に着手したところでございます。</p> <p>今後、コロナ禍において、「密」を避けながら、市民の方が気軽に講演会等に参加できるよう、ICTを積極的に活用し、今後の取組の検討に生かしてまいりたいと存じます。</p>
23	<p>(拡充)【帰国児童等支援事業】 支援者の情報だけでなく、派遣されている教育活動支援員の方等の情報共有の場等を設け指導者の孤立を防ぐ必要がある。</p>	<p>日本語指導者の情報共有については、関係市町間で要望があれば対応することとしておりますが、日本語指導者は常時不足しており、高松市においても県国際交流協会の援助に頼っているのが現状でございます。</p> <p>今後は、連携地域の担当者と密に情報交換を行い、児童生徒にとってよりの確かな支援をしてまいりたいと存じます。</p> <p>また、指導者の孤立を防ぐために教育委員会と指導者が適宜、連携を図りながら、情報共有に努めてまいりたいと存じております。</p>
24	<p>(自由)【地域密着型トップスポーツチームの試合観戦機会等の提供】 女子サッカーリーグトップ「なでしこリーグ」を目指す女子サッカーチームが綾川町を拠点とし、発足。女子サッカーの認知度自体低いが、連携地域の情報網を活用し、認知度を高め地域の活性化に繋げたい。</p>	<p>(高松市) 当事業は、香川プロスポーツクラブ連絡協議会との連携により実施しているところですが、今後、機会があれば、女子サッカー普及のための認知度向上に向けた取組について、検討してまいりたいと存じます。</p> <p>(綾川町) 綾川町を拠点として活動している女子サッカーチーム「UDN香川FC」の運営母体であるUDN(株)と包括連携協定を締結し、スポーツの活性化や地域振興及び魅力発信等に関して相互に連携を図っていくこととしております。</p> <p>現在、15名の選手が在籍し、令和3年度から香川県リーグにも参戦しており、他県の女子サッカー関係者にも認知されつつあり、地元自治体が応援しているということで今後も入団を希望する選手が増えることが見込まれます。</p> <p>今後はより地域に密着した活動をしていくことにより、中山間地域の活性化と本町の魅力あるまちづくりに寄与することを期待し、全面的にサポートしてまいりたいと存じます。</p>